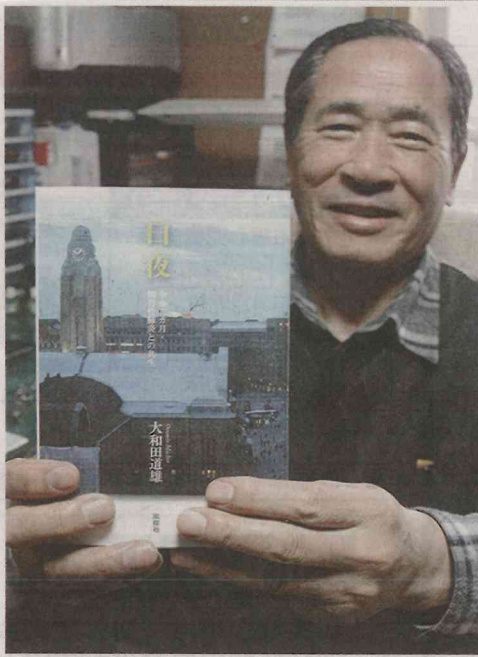


余命2カ月…支えられ回復

「お天気博士」として、本紙にコラムを連載していた愛知教育大の大和田道雄名誉教授(71)＝知立市八橋町＝が、自身の闘病体験をつづった本「白夜 余命二カ月・間質性肺炎との共生」を風媒社(名古屋市)から出版した。(土屋晴康)



自身の闘病体験を本にまとめた大和田名誉教授＝知立市八橋町で

原因不明の「特発性間質性肺炎」と診断された大和田さんが「余命二カ月」と宣告されながらも、懸命な治療で病を克服していく過程を記録した。題名はフィンランドで風の調査をしてきた経験から自分の命を太陽が沈まない「白夜」に例えた。気候や気象の専門家として、テレビ番組に出演するなど活躍していた大和田さんが、体調に異変を感じたのは二〇〇〇年を過ぎたころ。せきやたんが出

愛教大名誉教授 知立の大和田さん闘病記

て、寝ても二時間おきに目が覚めた。

「ただのぜんそく」とあまり気に留めずに仕事を続けたが、歩くのもままならないほど症状は悪化。〇五年四月に家族の説得で、公立陶生病院(瀬戸市)の専門医の診察を受けたところ、病名と「余命二カ月。運が良ければ三年」と告げられた。

「ここまで懸命に生きてきたんだから、未練はない」と入院したベッドの上で、半ば諦めに似た心境にもなったが、医師らの献身的な治療に支えられた。ステロイドの副作用に苦しんだものの、肺の状況は回復、夏には退院を許された。五年以上続けてきたステロイドの投与も五年前に終わった。

本は、余命宣告から十年たったのを機に、医師らへの感謝の気持

ちとして執筆。製本した千冊のうち、五百冊を病院に寄贈した。大和田さんは、「二カ月で死ぬといわれた私の体験を同じ病気に苦しむ人に伝えられれば」と話している。

B6判、156ページ。

千二百円(税別)。ネット通販サイトなどで購入できる。